

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4336539号  
(P4336539)

(45) 発行日 平成21年9月30日(2009.9.30)

(24) 登録日 平成21年7月3日(2009.7.3)

(51) Int.Cl.		F I	
A 6 1 F 13/49	(2006.01)	A 4 1 B 13/02	F
A 6 1 F 13/514	(2006.01)	A 4 1 B 13/02	A
A 6 1 F 13/15	(2006.01)	A 6 1 F 5/44	H
A 6 1 F 5/44	(2006.01)		

請求項の数 17 (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2003-208297 (P2003-208297)	(73) 特許権者	000115108
(22) 出願日	平成15年8月21日(2003.8.21)		ユニ・チャーム株式会社
(65) 公開番号	特開2004-141640 (P2004-141640A)		愛媛県四国中央市金生町下分182番地
(43) 公開日	平成16年5月20日(2004.5.20)	(74) 代理人	100066267
審査請求日	平成18年8月18日(2006.8.18)		弁理士 白浜 吉治
(31) 優先権主張番号	特願2002-256073 (P2002-256073)	(72) 発明者	島田 孝明
(32) 優先日	平成14年8月30日(2002.8.30)		香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531
(33) 優先権主張国	日本国(JP)		-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカル
			センター内
		審査官	竹下 和志

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 装飾要素を有する吸収性物品

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

着用時に対向する前後胴回域とこれら間に介在する股下域とを有する可撓性シャーシと、前記シャーシの内面に配置された半剛性吸収体と、前記シャーシを介して透視可能であって、前記前後胴回域の少なくとも一方に位置する装飾要素とから構成されている、装飾要素を有する吸収性物品において、

前記シャーシが、中間域と、対向側域とを有し、前記装飾要素が前記中間域の内側に位置し、前記中間域の光線透過率が、前記対向側域の光線透過率よりも高いことを特徴とする前記物品。

【請求項2】

前記中間域の光線透過率が最低40%であり、前記対向側域の光線透過率が最高70%である請求項1に記載の物品。

【請求項3】

前記中間域の光線透過率が70%以上であり、前記対向側域の光線透過率が70%未満である請求項1又は2に記載の物品。

【請求項4】

前記シャーシが、前記中間域において、繊維不織布からなる外面シートと、その内面に積層されていて前記装飾要素が表示されている液バリアシートと、前記対向側域において、前記外面シートの内面に積層されている少なくとも一層の繊維不織布とから構成されている請求項1ないし3のいずれかに記載の物品。

## 【請求項 5】

前記シャーシが、繊維不織布からなる外面シートと、前記外面シートの中間域の内面に積層されている液バリアーシートと、繊維不織布からなり前記対向側域それぞれに積層されたサイドシートとから構成されている請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の物品。

## 【請求項 6】

前記シャーシが、繊維不織布からなり互いに積層されている内外面シートと、前記内外面シートの中間域におけるそれらの間に一体的に介在する液バリアーシートとから構成されている請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の物品。

## 【請求項 7】

前記シャーシが、繊維不織布からなる互いに積層されている内外面シートと、前記内面シートの、前記吸収体の側における内面に積層されている液バリアーシートとから構成されている請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の物品。

10

## 【請求項 8】

前記装飾要素が、前記液バリアーシートに表示されている請求項 4 ないし 7 のいずれかに記載の物品。

## 【請求項 9】

前記液バリアーシートが、透湿性を有するプラスチックフィルム及び繊維不織布の一方からなる請求項 4 ないし 7 のいずれかに記載の物品。

## 【請求項 10】

前記シャーシが、複数層の繊維不織布からなり、前記対向側域における繊維密度が前記中間域における繊維密度よりも高い請求項 5 又は 6 に記載の物品。

20

## 【請求項 11】

前記シャーシを構成する少なくとも前記外面シートが、少なくとも前記装飾要素が位置する前記シャーシの中間域の少なくとも一部において、光線透過率を上げる部分光線透過向上手段が施されている請求項 1 ないし 10 のいずれかに記載の物品。

## 【請求項 12】

前記部分光線透過向上手段が前記外面シートに形成された複数の開孔、前記外面シートの繊維の溶融によるフィルム化のいずれかである請求項 1 ないし 11 のいずれかに記載の物品。

## 【請求項 13】

前記シャーシと前記装飾要素とは密接している請求項 1 ないし 12 のいずれかに記載の物品。

30

## 【請求項 14】

前記吸収体が、吸液性コアと、その身体対向面及びその周縁部を覆う透液性カバーシートとからなり、前記シャーシの内面に一体的に接合されている請求項 1 ないし 13 のいずれかに記載の物品。

## 【請求項 15】

前記前後胴回域の対向側縁がそれぞれにおいて接合されることにより、胴開口と一対の脚開口とが形成されている請求項 1 ないし 14 のいずれかに記載の物品。

## 【請求項 16】

前記シャーシにより形成されている前記胴開口と、前記脚開口と、前記胴及び脚開口の間の胴回部とは、それぞれに弾性部材が配置されており、前記弾性部材のいずれもが前記装飾要素が位置する前記シャーシの中間域には実質的に弾性収縮を及ぼしていない請求項 1 ないし 15 のいずれかに記載の物品。

40

## 【請求項 17】

前記胴回部における前記弾性部材が、その長さ方向対向端部のみにおいて、前記シャーシの前記対向側域に固定されている請求項 16 に記載の物品。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

## 【発明の属する技術分野】

50

この発明は、装飾要素を有する吸収性物品、さらに詳しくは、絵図、文字、記号などの装飾要素が胴回域に表示されている使い捨てのパンツ型おむつ、非パンツ型おむつ、トレーニングパンツ、失禁パンツ及びその類似物品に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、使い捨ておむつなどの吸収性物品において、物品の裏面シートの最外側を形成するシートとして、布様の外観・感触を付与するとともに、透視性をよくするため、光線透過率が40～83%の繊維不織布を用い、多色の絵柄が印刷されたフィルムを該不織布の内面に固定することで、該不織布を介して絵柄を透視可能としたものが、特開2002-657公報に開示されている。

10

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

絵図などの装飾要素は鮮明に透視されることが、その意匠効果を高めるうえで望ましく、そのためには、例えば、装飾要素をその外側から覆う外面シートとしての繊維不織布の光線透過率を高めればよい。しかしながら、そのようにすると、着用者の肌が透視され過ぎることになり、これを防ぐため、光線透過率が比較的低い繊維不織布を用いると、装飾要素に対する透視度が低下することになる。このように、物品の最外面を形成する繊維不織布の光線透過率の高低は、二律背反の関係にある。

【0004】

この発明は、装飾要素を覆う外面シートの、該装飾要素が位置する域と、一般に着用者の肌が透視され易い対向側域とにおける各光線透過率を異ならせることにより、前記課題を解決することにある。

20

【0005】

【課題を解決するための手段】

この発明は、少なくとも着用時に対向する前後胴回域とこれら間に介在する股下域とを有する可撓性シャーシと、前記シャーシの内面に配置された半剛性吸収体と、前記シャーシを介して透視可能であって、前記前後胴回域の少なくとも一方に位置する装飾要素とから構成されている、装飾要素を有する吸収性物品において、前記シャーシが、中間域と、対向側域とを有し、前記装飾要素が前記中間域の内側に位置し、前記中間域の光線透過率が、前記対向側域の光線透過率よりも高いことを特徴とする前記物品にある。

30

【0006】

前記シャーシの光線透過率が相対的に前記中間域において高く前記対向側域において低くなるようにするための好ましい形態としては、装飾要素が位置する前記シャーシの中間域と、前記対向側域とが、繊維不織布からなる場合、前記中間域における不織布の層数を前記対向側域における不織布の層数よりも少なくする手段と、前記対向側域における繊維密度を前記中間域における繊維密度よりも高くする手段と、少なくとも装飾要素が位置する前記中間域の一部において、光線透過率を上げる部分光線透過向上手段の、いずれかを採択することができる。部分光線透過向上手段としては、例えば、複数の開孔を付与する手段、熱ロールなどにより部分的にフィルム化する手段、液状ワックス、液状パラフィン、溶剤により処理する手段等が挙げられる。

40

【0007】

不織布としては、公知の熱可塑性合成繊維を用いることができる。装飾要素を表示する熱可塑性プラスチックフィルム又は繊維不織布も公知のものを用いることができるが、不織布としては、前記シャーシを構成する不織布や、吸収体を覆う不織布よりも繊維密度及び表面平滑度が高いものが、装飾要素を表示するうえで好ましい。

【0008】

装飾要素としては、キャラクターなどの絵図のほか、文字・記号などでもよく、又はそれら絵図、文字、記号の少なくとも二つの組み合わせでもよく、さらには、それらの表示は、平面的ばかりでなく、凹凸の立体的になされていてもよい。また、装飾要素は、多色に限らず、単色であってもよく、その色彩は、装飾要素を覆う前記シャーシの外面を形成する

50

不織布の地色と異なるものであればよい。

【0009】

この発明のその他の構成、材料などについては、実施の形態における記述をここに援用される。ただし、この発明は、実施の形態に限定されるものではない。

【0010】

【発明の実施の形態】

図面を参照しながら、この発明をその実施の形態に基づいて説明すると、以下のとおりである。

【0011】

(第1の実施の形態)

図1, 図2は、この発明に係る第1の実施の形態を示している。図1, 図2において、吸収性物品10は、縦中心線11を中心として左右対称であって、可撓性シャーシ12と、シャーシ12の内面に配置されている半剛性吸収体13と、シャーシ12に表示されている装飾要素14とから構成されている。

【0012】

シャーシ12は、前胴回域15と、後胴回域16と、股下域17とを有し、前後胴回域15, 16の対向側縁18がそれらの縦方向に沿って断続的に接合されることでパンツ型に形成され、胴開口19と、一对の脚開口20とを有している。股下域17は、対向側縁18の接合を解いてシャーシ12を扁平に展開したとき、縦中心線11へ向かって凹曲している。したがって、シャーシ12は、その展開状態では、ほぼ砂時計型を呈する。なお、物品10は、非パンツ型に形成されていてもよい。

【0013】

胴開口19と、脚開口20とには、それらの周方向に沿って複数条の弾性部材23, 24が伸長下に固定されている。弾性部材23, 24は、収縮することで、着用者の胴回部, 大腿部に胴開口19, 脚開口20をそれぞれ弾性的に圧接させて、物品10の着用状態を保持するとともに、胴開口19, 脚開口20からの排泄物の漏れを未然に防止する。胴開口19と脚開口20との間におけるシャーシ12の前後胴回域には、吸収体13の縦方向対向端部の近傍を横切って吸収体13を着用者の身体側へ比較的軽く圧接する複数条の弾性部材25が伸長下に配置されている。弾性部材25は、弾性限度内で所要量伸長した後の収縮力が弾性部材23, 24のそれよりも小さく、その長さ方向対向端部だけにおいて、シャーシ12の対向側縁18の近傍に固定されている。したがって、弾性部材25の収縮力は、シャーシ12の後記対向側域27だけに作用して、対向側域27だけにギャザーを形成し、吸収体13、シャーシ12の後記中間域26にギャザーを形成するなどの悪影響を与えない。

【0014】

シャーシ12は、これに対して配置されている吸収体13との位置関係から、大体において、中間域26と、対向側域27とに区画されることができる。中間域26は、吸収体13の対向側縁28の近傍の間で、かつ、対向側域27は、各側縁28の近傍とシャーシ12の各側縁18との間で、それぞれ区画されることができる。シャーシ12は、これと同形・同大で疎水性の外面シート29と、中間域26の縦方向へ延在する透湿性の液バリアーシート30と、対向側域27の縦方向へ延在する疎水性のサイドシート31とから構成されている。

【0015】

外面シート29、サイドシート31は、織度が0.8~5.0 d t e x、特に、1.0~4.0 d t e xの公知の熱可塑性合成繊維がランダムに配向している坪量が10~35 g / m<sup>2</sup>、特に15~25 g / m<sup>2</sup>の不織布から形成されている。合成繊維としては、例えば、ポリオレフィン系、ポリエステル系、ポリアミド系などの合成樹脂から製造されているものが挙げられる。不織布も公知のものが挙げられ、例えば、エアースルー、ポイントボンド、メルトボンド、スパンボンド、SMSなどがある。

【0016】

10

20

30

40

50

液バリアーシート30は、坪量が10～40g/m<sup>2</sup>の公知の熱可塑性プラスチックフィルムから形成されている。このフィルムの材料としては、例えば、ポリオレフィン系の合成樹脂が挙げられる。液バリアーシート30の外面シート29との対向面には装飾要素14が表示されている。液バリアーシート30は、装飾要素14を印刷し得るだけの繊維密度、表面平滑度を有している限り、前記不織布と同様な繊維からなるものであってもよい。そうした繊維密度、表面平滑度は、外面シート29、サイドシート31として用いられる前記不織布よりもかなり高いものであることが好ましい。

【0017】

装飾要素14は、キャラクターなどの絵図のほか、文字、記号などであってもよく、また、それら絵図、文字、記号などの少なくとも二つの組み合わせでもよい。装飾要素14の液バリアーシート30に対する表示は、外面シート29とは色彩が異なる多色または単色で印刷されていることが好ましいが、平面的であるばかりでなく、立体的になされていてもよい。

10

【0018】

外面シート29は、その光線透過率が40%以上、さらには70%以上であることが、外面シート29を介して装飾要素14を鮮明に透視し得るうえで好ましい。シャーシ12は、中間域26においては、液バリアーシート30と対向する層としては、外面シート29だけであるところ、対向側域27においては、外面シート29とこれに積層しているサイドシート31との二層である。サイドシート31の光線透過率は、外面シート29のそれと同等、それよりも高くしても低くしてもよいが、対向側域27においては、それらシートの繊維がランダムに配向してそれらシートの二層が積層していることにより、光線透過率が中間域26における外面シート29のそれよりも低くされている。したがって、物品10を着用した状態において、着用者の肌が対向側域27を介して透視されすぎることがない。

20

【0019】

この発明者らの実験によれば、中間域26の光線透過率が70%以上、対向側域27の光線透過率が70%未満であることが、装飾要素14が鮮明に透視されるとともに、着用者の肌が透視されにくいことと、シャーシ12を構成し易いことを知見した。対向側域27の光線透過率は、着用者の肌に対する透視度との関係で低いほど好ましいが、低いほど対向側域27の坪量、密度、ひいては、剛性が高くなるので、風合、感触、フィット性などにおいて好ましくない。

30

【0020】

さらに前記知見に基づいていえば、液バリアーシート30を除くシャーシ12の光線透過率は、中間域26において高く、対向側域27において低いことが必要であるが、その必要を満たす条件下に、中間域26、対向側域27の光線透過率は、70%の近傍であることが、前記透視度、前記構成の観点から好ましい。光線透過率がそのように近接しているにもかかわらず、そうした好ましい条件を満たすには、中間域26における外面シート29は弾性部材23, 24, 25の収縮によってギャザーが形成されることがなく、装飾要素14が表示されている液バリアーシート30と実質的に密接しているとともに、対向側域27は、弾性部材23, 24, 25、特に胴回部の弾性部材25によってギャザーが形成されるようになっていることが好ましい。物品10は、それを着用しているときに、対向側域27でギャザーを形成していると、対向側域27の光線透過率が一層低くなり、着用者の肌がそれだけ透視されにくくなる。図1の実施の形態においては、まさにそのように物品10が構成されている。中間域26において、外面シート29の液バリアーシート30に対する密接を維持させるためには、両者が接着または溶着などの手段によって接合されていることが好ましい。その接合は、外面シート29、液バリアーシート30の透湿性、柔軟性を低下させないようにドットパターン、ラインパターン、スパイラルパターンなどの適宜パターンに設けられている接着又は溶着で間欠的になされていることが好ましい。同様に、対向側域27における外面シート29とサイドシート31とも、前記手段で接合されていることが好ましい。ただし、対向側域27においては、外面シート29と

40

50

サイドシート 31 とは、必ずしも密接している必要がないので、その接合密度は、中間域 26 におけるそれよりも疎であってもよいし、むしろ、疎であることが、風合い、感触をよくするうえでは好ましい。

#### 【0021】

光線透過率の測定には、JIS K 7105 の一般光学特性光線透過率試験測定法 A に従い測定を実施し、全光線透過率を光線透過率とした。本発明者らは、前記測定に、日本電色工業株式会社製モデル NDH - 300A を用いた。

測定方法の詳細：

- (1) 試験片の寸法を 50 × 50 mm の大きさとする。
- (2) 測定機の試験片設置部（試料バサミ部）に試験片 1 枚を挟み、蓋を閉じる。
- (3) スタートキーを押し測定する。
- (4) T t : 全光線透過率（%）を光線透過率とする。
- (5) 試験片 3 枚測定し、その平均を値とする。

10

留意事項：

- (1) 測定機の電源は測定する 30 分以上前に、ON にしておく。
- (2) 試験片が 50 × 50 mm の大きさが取れない場合は、光線透過測定部面を完全に試験片が覆っていることを十分確認して測定すれば、試験片は 35 × 35 mm 以上の大きさがあれば測定が可能である。
- (3) 試験片が極めて柔らかい場合など、特に試験片が試料バサミに正しく設置されていることを確認する。
- (4) 吸収性物品から、シャーシの試験片を取り出す方法は、ハサミ等で切り取る。吸収性物品の構造によっては、他の部分と接着剤等で接着されているものもあるが、この場合、シャーシの光線透過率に影響を受けない程度の熱風等を与えながら注意深く剥がすなどにより、試験片とすることができる。また、熱風等でダメージを受けて、光線透過率に影響を受けてしまう場合には、接着剤をトルエン等の有機溶剤で溶かした後、乾燥して試験片とすることができる。

20

#### 【0022】

吸収体 13 は、前記不織布よりもかなり厚くて砂時計型を呈する吸液性コア 32 と、その身体対向面及びその周縁部を覆う透液性カバーシート 33 とから構成されている。コア 32 は、フラッフパルプと、超吸収性ポリマー粒子と、場合によっては、熱可塑性合成繊維との混合物を、図示されていないが、その型崩れ防止などの目的から、ティシュペーパーなどの液拡散性シートで包括するとともに、適宜圧縮することで、構成されている。それゆえに、コア 32 は、半剛性であるといえる。こうしたコア 32 は、液バリアシート 30 の上面に、その周縁部を適宜寸法だけ残して積層されている。その積層が妄りにずれないようにするには、コア 32 が液バリアシート 30 にドットパターン、ラインパターン、スパイラルパターンなどの適宜パターンに塗布されている接着剤で間欠的に接合されていることが好ましい。コア 32 の周縁部からその外側へ延出するカバーシート 33 の周縁部 34 は、同じくコア 32 の周縁部からその外側へ延出する液バリアシート 30 の周縁部 35 を経て対向側域 27 の外面シート 29 に接合されている。液バリアシート 30 は、コア 32 に吸収された排泄物の漏れを未然に防止する機能をも有していることから、コア 32 の底面を覆うに足る程度の寸法を有しておればよい。またコア 32 は、その対向側縁 28 から対向側域 27 へ延在している必要はないが、長く延在していないので、対向側域 27 の透湿性を低下させることがない。ちなみに、液バリアシート 30 も透湿性を有しているが、一般に得られる公知の液バリアシート 30 は、その組成樹脂に無機質を充填して延伸することで微細孔を付与したものであるため、その透湿性は、通常、外面シート 29 や、サイドシート 31 や、カバーシート 33 の繊維不織布のそれよりも低い。

30

40

#### 【0023】

物品 10 は、一対の液バリアカフス 36 をも含んでいる。液バリアカフス 36 は、近位縁部 37 と、遠位縁部 38 とを有している。近位縁部 37 は、吸収体 13 の対向側縁に沿って、接着、溶着などの公知の手段によって接合されている。遠位縁部 38 は、折り返

50

して形成されているスリーブ39の内部に弾性部材40がその長さ方向への伸長下に固定されている。したがって、液バリアーカフス36は、弾性部材40の収縮によって近位縁部37を支点として起き上がり性を有し、物品10の横方向への排泄物の漏れを未然に防止するようにされている。液バリアーカフス36には、疎水性繊維不織布が好ましく、その不織布としては、公知の前記不織布が挙げられる。図示されていないが、対向側域27におけるサイドシート31に替え、液バリアーカフス36を近位縁部37から延出させ、その延出部を対向側域27における外面シート29に積層してあってもよい。

【0024】

胴開口16の弾性部材23、脚開口17の弾性部材24、前後胴回域の弾性部材25は、それらが着用者の身体に直接接触することがないように物品10の構成部材で覆われている。すなわち、弾性部材23は、その大部分がシャーシ12とカバーシート33との間に介在している。ただし、コア32の縦方向対向端部からの、シャーシ12の延出長さを適宜にし、その延出部でスリーブを形成し、該スリーブの内部に位置していてもよい。弾性部材24は、シャーシ12とサイドシート31との間に介在している。弾性部材25は、中間域26においては、シャーシ12と吸収体13との間に、かつ、対向側域27においては、シャーシ12とサイドシート31との間に介在している。

10

【0025】

(第2の実施の形態)

図3は、この発明に係る第2の実施の形態を示している。この形態に係る物品10においては、第1の実施の形態に係る物品10と同じ主要な部材、部位には同じ符号を付して、その説明を省略してある。この形態に係る物品10において第1の実施の形態に係るそれと異なる点は、シャーシ12が、同形・同大の内外面シート29a, 29と、これらの中に介在している液バリアーシート30とから構成されていることである。したがって、この形態に係る物品10においては、対向側域27に位置する内面シート29aの部位が、第1の実施の形態に係る物品10における対向側域27の単独のサイドシート31に替わって対向側域27に延在している。

20

【0026】

必要に応じて、シャーシ12の対向側域27の光線透過率をその中間域26のそれよりも低くするため、対向側域27に位置する内外面シート29a, 29の域は、該シートを形成する繊維不織布をその繊維が溶融しない程度に熱ロールで加圧し、その繊維密度を中間域26におけるそれよりも高くすることで、対向側域27の光線透過率を中間域26のそれよりも低くしてあってもよい。

30

【0027】

なお、こうした処理は、必要に応じて、第1の実施の形態に係る物品の対向側域27に適用してもよい。

【0028】

(第3の実施の形態)

図4は、この発明に係る第3の実施の形態を示している。この形態に係る物品10においては、第1の実施の形態に係る物品10と同じ主要な部材、部位には同じ符号を付して、その説明を省略してある。この形態に係る物品10において第1の実施の形態に係るそれと異なる点は、シャーシ12が、液バリアーシート30は別として、同形・同大の内外面シート29a, 29とから構成されていることである。したがって、この形態に係る物品10においては、対向側域27に位置する内面シート29aの域が、第1の実施の形態に係る物品における対向側域27の単独のサイドシート31に替わって対向側域27に延在している。

40

【0029】

この実施の形態に係る物品10においては、第2の実施の形態に係る物品10において必要に応じてなす前記処理、すなわち、シャーシ12の対向側域27の光線透過率をその中間域26のそれよりも低くするため、対向側域27に位置する内外面シート29a, 29の域は、該シートを形成する繊維不織布をその繊維が溶融しない程度に熱ロールで加圧し

50

、その繊維密度を中間域 2 6 におけるそれよりも高くすることで、対向側域 2 7 の光線透過率を中間域 2 6 のそれよりも低くする処理が施されている。

【 0 0 3 0 】

(第 4 の実施の形態)

図 5 , 図 6 は、この発明に係る第 4 の実施の形態を示している。この形態に係る物品 1 0 においては、第 1 の実施の形態に係る物品 1 0 と同じ主要な部材、部位には同じ符号を付して、その説明を省略してある。この形態に係る物品 1 0 において第 1 の実施の形態に係るそれと異なる点は、シャーシ 1 2 を構成する外面シート 2 9 の中間域 2 6 には、直径 0 . 3 ~ 5 mm の複数の開孔 4 1 が開孔率 3 0 ~ 7 0 % で形成されていることである。この開孔 4 1 は、中間域 2 6 における外面シート 2 9 の光線透過率を高めるうえで有効であって、繊維不織布に対する公知の開孔形成法によって容易に形成することができる。

10

【 0 0 3 1 】

(その他の実施の形態)

図示されていないが、シャーシ 1 2 の中間域 2 6 と対向側域 2 7 との光線透過率を相対的に異ならせる前記以外の手段として、装飾要素 1 4 が位置する中間域 2 6 の一部において、不織布をその繊維が溶融してフィルム化するように熱ロールで加工する手段と、液状ワックス、液状パラフィン、溶剤による処理手段の、いずれかを採択することもできる。

【 0 0 3 2 】

なお、以上の各実施の形態においては、必要に応じて、該形態を適宜組み合わせる構成することができる。

20

【 0 0 3 3 】

【発明の効果】

この発明に係る物品によれば、シャーシの中間域に位置する装飾要素を鮮明に透視することができるとともに、シャーシの対向側域からは着用者の肌が透視されすぎることがなく、意匠効果が高く、しかもそのように透視されすぎないようにしてあることで、シャーシの対向側域の風合い、感触、フィット性を損なうことがない。

【図面の簡単な説明】

【図 1】この発明の第 1 の実施の形態に係る物品の部分破断斜視図。

【図 2】前記物品の部分省略横断面図。

【図 3】この発明の第 2 の実施の形態に係る物品であって、図 2 と同様な断面図。

30

【図 4】この発明の第 3 の実施の形態に係る物品であって、図 2 と同様な断面図。

【図 5】この発明の第 4 の実施の形態に係る物品であって、図 1 と同様な斜視図。

【図 6】図 5 の物品であって、図 2 と同様な断面図。

【符号の説明】

1 0 物品

1 2 シャーシ

1 3 吸収体

1 4 装飾要素

1 5 前胴回域

1 6 後胴回域

40

1 7 股下域

1 8 側縁

1 9 胴開口

2 0 脚開口

2 3 , 2 4 , 2 5 弾性部材

2 6 中間域

2 7 対向側域

2 8 吸収体の側縁

2 9 シャーシの外面シート

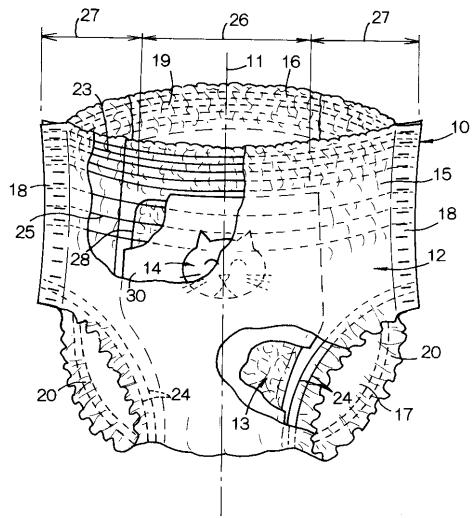
2 9 a シャーシの内面シート

50

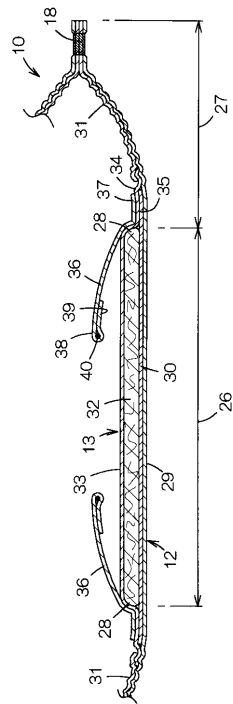


- 3 0 液バリア - シート
- 3 1 サイドシート
- 3 2 コア
- 3 3 カバーシート
- 4 1 開孔

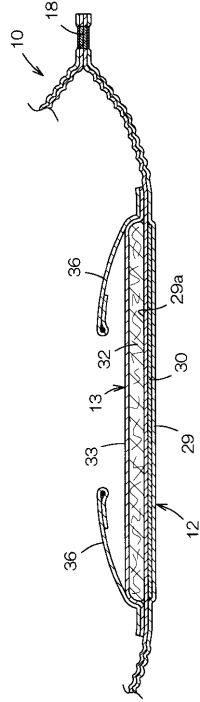
【 図 1 】



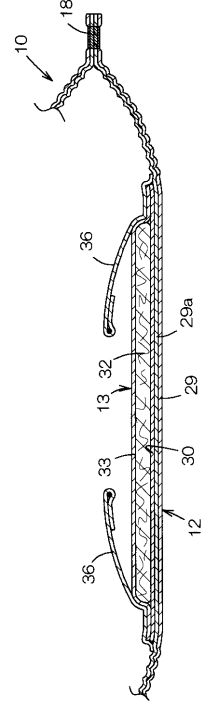
【 図 2 】



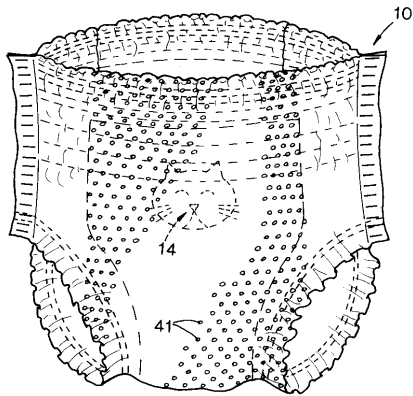
【 図 3 】



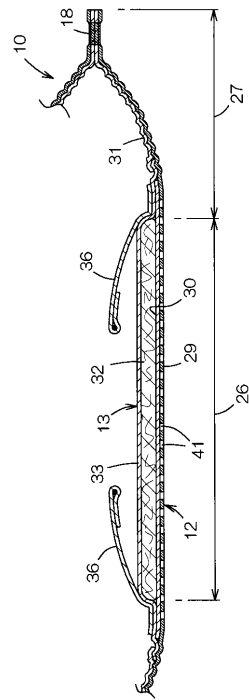
【 図 4 】



【 図 5 】



【 図 6 】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 特開2002-11045(JP,A)  
特開2002-657(JP,A)  
特開2001-170106(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
A61F 13/15 - 13/84